

鹿児島支部から各自治体へ海運・船員の政策諸課題に関する申し入れ
鹿児島県・宮崎県

鹿児島支部は1月から2月までの間、鹿児島県と鹿児島県議会、宮崎県へ、海運・船員の政策諸課題に関する申し入れを実施し、船員税制をはじめ、喫緊の課題である船員の後継者の確保・育成など、船員職業の重要性について説明し、理解を求めた。

申し入れは、二神健太鹿児島支部長と執行部員、竹内勝士マルエーフェリー株式会社職場委員と国本竜平マリックスライン株式会社職場委員、全国海友婦人会の小原文子副会長と今村映子南九州ブロック長、組合政治参与の福司山宣介鹿児島県議会議員にご同行いただいた。

主な申し入れ内容は▽船員の人材確保・育成の推進▽船員養成教育機関の維持・定員拡大▽海に親しむ活動▽船員税制▽フェリー・旅客船の維持・存続など。

鹿児島県からは▽フェリー・旅客船は離島住民の海上交通手段として重要な役割を果たしており、生活を維持していくために必要な存在であることは承知している▽鹿児島水産高等学校における寮の改修工事や女子寮の確保は実施済みであり、生徒募集の在り方などを検討し船員を志す子どもが増加するような取り組みを行っていききたい▽船員税制については各市町村の裁量であり、県としての対応は難しいが、関係自治体と情報を共有していきたいなどの考え方が示された。

鹿児島県議会からは▽フェリー・旅客船は島民の移動手段や物資輸送に必要不可欠であり、住民生活を維持していくための支援策について検討していききたい▽人の移動や物流を止めないためにも船員の後継者確保に向け、鹿児島水産高等学校の維持・存続に向けた取り組みを行っていききたいなどの考え方が示された。

宮崎県からは▽船舶は農産物などの輸送に重要な役割を担っていることから、引き続き支援を検討していききたい▽漁船員の後継者確保に向けた支援策を講じるとともに、新規参入者に対する国の事業などを活用し、サポートを行っていききたい▽船員の担い手を育成する宮崎海洋高等学校の維持・存続、小学生の体験授業など、できる限りの協力をしていきたいなどの考え方が示された。

「海員だより」